

俺は物心ついた頃からずっと、この禍というものが見えていた
これが自分にしか見えていないと分かったのは小学生の頃で
それから俺は自分がおかしいんだという現実を受け止めて生きてきた

彼女もそんな俺とずっと一緒にいたが、誰にもそれを話したことはない
いわゆる「見えない友達」というやつだと中学生の頃には気づいた
それにしたって俺に話しかけるでもなく、何かするでもなく、ただずっとそこに居るだけだった
俺に視線を向けた事だって一度もなかった

だから誰かに話そうにも話題がなかったんだ